安全データシート

作成日 2015 年 3 月 18 日

1. 製品及び会社情報

製品名	:	**CP-5E**
会社名	:	極東製薬工業株式会社
住所	:	東京都中央区日本橋小舟町 7 番 8 号
担当部門	:	営業学術部
電話番号	:	03-5645-5664
FAX 番号	:	03-5645-5703
製品コード	:	27203
緊急連絡電話番号	:	03-5645-5664

2. 危険有害性の要約

混合物としてのデータはない。ジメチルスルホキシド及びエチレングリコールについて記載する。

GHS 分類
(1): 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分 2B－(H320)
(2): 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分 2B
生殖毒性 区分 1B
特定標的臓器毒性(反復暴露) 区分 1
区分 1 中枢神経系, 呼吸器系, 心臓

GHS ラベル要素
(2):

注意喚起語
(1): 警告
(2): 危険

危険有害性情報
(1): H320－ 眼刺激をおこす
(2): H303－ 飲み込むと有害のおそれ
H320－ 眼刺激をおこす
H360－ 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
H370－ 以下の臓器に障害を生じる 中枢神経系,腎臓,心臓,呼吸器系
H372 － 長期暴露または反復暴露により以下の臓器に障害を生じる:
中枢神経系,呼吸器系,心臓

注意書き
[安全対策] (1): ･取扱い後には顔や手など、ばく露した皮膚を洗う。
(2): ･使用前に取扱説明書を入手すること。
･すべての安全予防措置を読み、理解するまでは取り扱わないこと。
･個人用保護具を着用すること。
･取扱い後には顔や手など、ばく露した皮膚を洗う。
･粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
･この製品の使用時には飲食、喫煙は禁止。
[応急措置] (1): ･気分が悪い場合、医師の治療を受けること。
･眼に入った場合、数分間気を付けて洗浄する。もしコンタクトを装着していて、容易に取り外せるなら、取り外す。その後も洗浄を続ける。
･眼の刺激が続く場合、医師の治療を受けること。
(2): ･ばく露した場合、毒劇物センターもしくは医師に連絡してください。
･眼に入った場合、数分間気を付けて洗浄する。もしコンタクトを装着し

ていて、容易に取り外せるなら、取り外す。その後も洗浄を続ける。
・眼の刺激が続く場合、医師の治療を受けること。
・皮膚に炎症が出た場合、医師の診断、処置を受けてください。
[廃棄](2): ・内容物および容器は承認された廃棄物処理場に廃棄すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区分 : 混合物
化学名又は一般名 : データなし

成分	化学特性(化学式等)	CAS No.	濃度又は濃度範囲(含有量)	官報公示整理番号(化審法・安衛法)
Hydroxyethyl starch	データなし	設定されていない	―	設定されていない
ジメチルスルホキシド(1)	$(CH_3)_2SO$	67-68-5	5%	2-1553
エチレングリコール(2)	$HOCH_2CH_2OH$	107-21-1	5%	2-230
塩化ナトリウム	NaCl	7647-14-5	―	1-236

危険有害成分 : エチレングリコール

4. 応急措置

吸入した場合 : 該当しない。
皮膚に付着した場合 : 多量の水で石鹸を用いてよく洗い流す。炎症を生じた場合は医師の手当てを受ける。
目に入った場合 : 15 分以上水で洗浄する。瞼を広げ、眼をあらゆる方向に動かす。異常があれば医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合 : 口をすすぎ、直ちに医師の処置を受ける。無理に吐かせてはならない。意識の無い場合は、口から何も与えてはならない。

5. 火災時の措置

消火剤 : 水、炭酸ガス等
使ってはならない消火剤 : データなし
火災時の特有危険有害性 : 消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
特有の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火活動は、可能な限り風上から行う。
消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。
環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法・機材 : 密閉できる空容器に回収する。こぼした場所は、ウエス、雑巾等で拭き取る又は大量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 特になし
局所排気・全体換気 : 特になし
注意事項 : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。使用後は容器を密栓する。取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。
安全取扱い注意事項 : 目、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。

保管

技術的対策	:	特になし
適切な保管条件	:	容器は密栓し、室温で保管する。
混触禁止物質	:	データなし
安全な容器包装材料	:	PETG

8. 暴露防止及び保護措置

混合物としてのデータはない。各成分の情報を記載する。

設備対策	:	取扱場所の近くに手洗い、洗眼設備を設置する。
管理濃度・作業環境評価基準	:	設定されていない
許容濃度　OSHA PEL;	:	設定されていない
ACGIH TLV(s);	(2):	Ceiling: 100 mg/m^3 aerosol only
日本産業衛生学会;	:	設定されていない
保護具		
呼吸器の保護具	:	保護マスク
手の保護具	:	保護手袋
目の保護具	:	保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	:	保護衣、保護長靴

9. 物理的及び化学的性質

外観	:	無色～淡黄色の液体
臭い	:	データなし
pH	:	データなし
融点／凝固点	:	データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	:	データなし
引火点	:	データなし
自然発火温度	:	データなし
燃焼性	:	データなし
燃焼又は爆発範囲　上限・下限	:	データなし
蒸気圧	:	データなし
蒸気密度	:	データなし
蒸発速度	:	データなし
比重（相対密度）	:	データなし
溶解度	:	データなし
n-オクタノール／水分配係数	:	データなし
分解温度	:	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	:	データなし
危険有害反応可能性	:	データなし
避けるべき条件	:	データなし
混触危険物質	:	データなし
危険有害な分解生成物	:	データなし

11. 有害性情報

混合物としてのデータはない。各成分の情報を記載する。

急性毒性	(1):	経口　ラット：LD50：14,500 mg/kg
	(2):	経口　ラット：LD50：4,000 mg/kg
		経口　ラット：LD50 4,000-10,200 mg/kg (CICAD 45 (2002))から区

		分5とした。 経皮 ラット:LD50 10,600 mg/kg (CICAD 45(2002)) から区分外とした。
皮膚腐食性・刺激性	(2):	CICAD 45 (2002) 記載のウサギ、モルモットを用いた皮膚刺激性試験結果「 mild dermal irritation in rabbits and guinea-pigs 」のため区分3とした。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	(2):	ウサギを用いた眼刺激性試験結果の「エチレングリコール (液体又は蒸気) のウサギの眼への短時間暴露は角膜の永久傷害を伴わない結膜への刺激をもたらす」(CICAD 45 (2002)) から区分2Bとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	(2):	呼吸器感作性:データなし 皮膚感作性:パブリックコメントにある OECD SIDS SIAP の Summary に「エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、テトラエチレングリコールは皮膚感作性を引き起こさない"EG, DEG, TEG and tetraEG have not induced skin sensitization."」と記載されていることを確認した。従って、皮膚感性は「分類できない」から「区分外」へ修正するのが妥当と考える。
生殖細胞変異原性(変異原性)	(2):	CICAD45(2002)の記述から、ラットの優性致死試験で陰性、生殖細胞 in vivo 変異原性試験なし、体細胞 in vivo 変異原性試験(染色体異常試験/小核試験)で陰性であることから区分外とした。
発がん性	(2):	ACGIH(2001)で A4 に分類されていることから、区分外とした。
生殖毒性	(2):	CICAD 45 (2002)の記述から、マウスの連続交配試験、ラットの催奇形性試験において、母毒性のない用量で児動物への影響(奇形、骨化遅延、未骨化)がみられていることから区分 1B とした。
特定標的臓器、単回暴露	(2):	GHS 国文書 3.7.2.5.5 には、作用機序がヒトには該当しないことが示された場合には、実験動物の生殖に有害影響を生じるような物質でも分類すべきでないと記載されている。従って、GHS 分類は「区分外」が妥当であると考える。
特定標的臓器、反復暴露	(2):	ヒトについて、「意識消失、眼球振とう」「軽い頭痛と腰痛、上気道の刺激」(環境省リスク評価書 第 3 巻 (2004))との記載があり、実験動物については「肺及び心臓に炎症性の変化」(環境省リスク評価書 第 3 巻 (2004))との記載があることから、標的臓器は中枢神経系、呼吸器、心臓と考えた。なお、実験動物に対する影響は区分 1 のガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分 1(中枢神経系、呼吸器、心臓)とした。
吸引性呼吸器有害性	:	データなし
その他の情報	:	データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

魚毒性	(1):	LC50:*Pimephales promelas* 34,000 mg/L 96 h LC50:*Oncorhynchus mykiss* 33− 37 g/L 96 h LC50:*Lepomis macrochirus* 40 g/L 96 h

LC50 : *Cyprinus carpio* 41.7 g/L 96 h
(2): LC50 : *Oncorhynchus mykiss* 41,000 mg/L 96 h
LC50 : *Oncorhynchus mykiss* 14-18 mL/L 96 h
LC50 : *Lepomis macrochirus* 27,540 mg/L 96 h
LC50 : *Oncorhynchus mykiss* 40,761 mg/L 96 h
LC50 : *Pimephales promelas* 40,000 – 60,000 mg/L 96 h
LC50 : *Poecilia reticulata* 16,000mg/L 96 h

その他のデータ
(1): EC50 : *Skeletonema costatum* 12,350 – 25,500 mg/L 96 h
EC50 : *Daphnia species* 7,000mg/L 24 h
(2): EC50 : *Pseudokirchneriella subcapitata* 6,500 –13,000 mg/L96 h
EC50 : *Daphnia magna* 46,300mg/L 48 h

残留性／分解性 : データなし
生体蓄積性 : データなし
その他
水生環境有害性(急性) (2): 魚類(ヒメダカ)の 96 時間 LC50＞100mg/L(環境省生態影響試験、2001)他から、区分外とした。
水生環境有害性(慢性) (2): 難水溶性でなく(水溶解度=1.00 × 106mg/L (PHYSPROP Database、2005))、急性毒性が低いことから、区分外とした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 小量の場合はおがくず、ウエス等に吸収させて開放型の焼却炉で焼却する。排水は活性汚泥等の処理により清浄にしてから排出する。
廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。
なお上記方法による処理が出来ない場合は都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国連番号 : 非該当
品名 : 非該当
国連分類 : 非該当
容器等級 : 非該当
海洋汚染物質 : 非該当
注意事項 : 輸送前に容器の破損、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。直射日光を避ける。

15. 適用法令

消防法 : 非該当
毒物及び劇物取締法 : 非該当
労働安全衛生法 : 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9)(エチレングリコール)
化学物質管理促進法(PRTR 法) : 非該当

16. その他の情報

引用文献

1) 和光純薬工業株式会社 安全データシート
(W01W0104-3136JGHEJP、2014 年 4 月 18 日)、(W01W0105-0098JGHEJP、2014 年 7 月 25 日)、(W01W0119-0166JGHEJP、2014 年 5 月 14 日)
2) 毒物劇物データハンドブック 毒劇物安全性研究会編 薬務広報社

3) 危険物データブック 東京消防庁 警防研究会編 丸善
4) 職場のあんぜんサイト
5) ezCRIC 2015 日本ケミカルデータベース株式会社

この SDS は基本的な取扱いについて記述したもので安全保証を意図して作られたものではありません。
また、危険・有害性の評価は現時点で入手できる資料、情報、データ等で作成しておりますが、全ての資料を網羅した分けではありませんので取扱いには十分注意して下さい。